

# 週刊 日本共産党 市議会報告

14年5月26日 第1289号

【発行】  
日本共産党浦安市議団  
市役所内控入室(議会棟1階)  
☎&FAX (350)1243



子育ても老後も安心  
住み続けたい浦安を



市議会議員  
元木美奈子

入船 4-37-14  
☎355-8526  
minamonton@  
jcom.home.ne.jp



市議会議員  
美勢 麻里

北栄 2-3-16-203  
☎354-9269  
m5mise@jcom.  
home.ne.jp

3対17  
浦安市議会否決

## 「集団的自衛権」を認める 憲法解釈の変更に反対する意見書

3月議会



これまでの憲法解釈を変更して「集団的自衛権」の行使を容認すべきだとの報告を安倍首相の私的諮問機関が出し、政府・与党での検討に乗り出していますが、反対する国民が多いことを示す世論調査が相次いでいます。  
3月の浦安市議会で日本共産党は「集団的自衛権を認める憲法解釈の変更に反対する意見書」を提出しましたが、否決されています。

### 国会審議抜きで変更?

安倍首相は2月20日の衆院予算委員会で、集団的自衛権行使の容認に向けた憲法解釈変更について、国会審議抜きで、内閣が勝手に憲法解釈を変更できるとの考えを示しました。

### これまでの国会議論の積み重ね崩す

憲法解釈をめぐる閣議決定は、これまで国会での議論の積み重ねのうえに行われてきたものです。  
時の政権が国会審議も抜きに独断で変更できるような軽いものではありません。

### 「憲法上、行使は認められない」 確定した政府全体の見解

日本が直接攻撃されたわけでもないのに、アメリカなど日本と密接な関係にある国が

攻撃されることを理由に、日本が武力を行使する「集団的自衛権」の行使は、これまで歴代の政権が「憲法上、行使は認められない」としてきたものです。  
こうした判断は、内閣法制局の長官だけでなく首相や閣僚なども国会で繰り返し答弁し、閣議で決定した答弁書などでも確定した政府全体の見解です。

2011年小泉首相(当時)

集団的自衛権については、政府は従来から憲法上許されないと考えている

平成13年 小泉首相(当時)

集団的自衛権については、政府は従来から憲法上許されないと考えてきている

戦争に参加しなかったことは  
世界に誇るべきこと

憲法で戦争を放棄し武力の行使を禁止している日本が、海外で戦争に参加するなどというのは、到底許されることではありません。  
戦後68年、日本がただの一度も外国での戦争に参加しなかったことは世界に誇るべきことで、憲法解釈を変え戦争の道突き進むのは言語道断です。

### 再び戦争の惨禍を 起こさない決意崩すな

日本国憲法は「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやう」とのべるとともに、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して」「安全と生存を保持しよう」と決意した」としています。

### 解釈改憲への動きを強める 安倍首相について

「平和主義を拒否している」  
米紙ニューヨーク・タイムズ  
世界ではいま、戦争ではなく平和的・外交的努力で問題を解決する流れです。

日本政府は「集団的自衛権」を認める憲法解釈の変更に進むのではなく、憲法を生かしてアジアと世界の平和に貢献する道を進むことが求められています。

# 2014年 3月議会



## 意見書に対する各政党・会派の態度

集団的自衛権を認める憲法解釈の変更に反対する意見書  
(日本共産党提出)

日本共産党		公明党			復興浦安			きらり浦安			みらい			無会派				○：賛成 ●：反対	議：議長		
元木美奈子	美勢麻里	秋葉要	田村耕作	中村理香子	岡本善徳	醍醐誠一	岡野純子	西山幸男	辻田明	末益隆志	宮坂奈緒	芦田由江	宝新	西川嘉純	深作勇	水野実	長谷川清司			折本ひとみ	柳毅一郎
○	○	●	●	●	●	●	●	議	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	否決 3対17



## しんぶん赤旗日曜版 自民元幹事長 加藤紘一さん

しんぶん赤旗日曜版には様々な方が登場しますが、5/18付けには自民党の加藤紘一元幹事長が一面に登場しました。

加藤氏は「集団的自衛権の行使を容認すれば、米国の要請で自衛隊が地球の裏側まで行くことは十分に想定される」と述べ、自衛隊の海外派兵などを懸念しています。

安倍晋三首相が目指す集団的自衛権の行使容認について「憲法解釈変更などという軽い手法ではなく、正々堂々と改憲を国民に提起すればいい」などと批判しています。

タレントで元民主党参院議員の大橋巨泉さんも「憲法は権力を縛るもの」立憲主義の立場から「閣議決定で(憲法)解釈を変えてしまうのは根本が違っている」と厳しく批判しています。

今、「しんぶん赤旗」が、平和と民主主義の幅広い共同の場、立ち場を超えた共通の砦になっています。

この機会に「しんぶん赤旗」をぜひご購読ください！

ぜひしんぶん赤旗  
購読ください！